

●イメージづくりの具体的内容

①住まいの状況を知る

人間の健康診断と同様、住まいの点検をし、設備等の不具合や交換時期などの確認をします。専門家でないと分からない部分も多いので、家を建てた工事会社や設計事務所、または、現状の点検をしてくれる機関に依頼しても良いでしょう。

(既存住宅性能表示制度の利用など：

評価協会ホームページ <http://www.hyokakyokai.or.jp/seido/kizon/index.html>)

②将来を見据え、家族でそれぞれの要望を出す

不満な点、不便な点を挙げ、「こうだったらいいのに」という要望を家族全員で出し合ひましょう。また、5年後10年後の家族の状況を想像し、今必要なこと、将来必要なことを考え、書き出してみましょう。

③資料を揃える

土地の測量図、家の図面、仕様書、確認申請書類など、マンションの場合は、販売時の間取り図、管理規約などの資料を揃えましょう。資料が揃っていると、依頼先にも状況を説明し易くなりますし、売買や維持管理計画の際に役立ちます。

④予算の目安を付ける

要望に対してどのくらいの予算が必要か、リフォーム関連の雑誌やホームページである程度の目安をたてておきましょう。

⑤情報収集をする

好みのイメージ写真、耐震や省エネ・バリアフリーなどで使える助成金や減税についての詳細事項、また融資を受ける場合は申し込みのタイミングなどの詳細事項、依頼先についての情報、リフォームをした知人の体験談など、できるだけ情報収集しておきましょう。

⑥要望に優先順位をつける

要望や予算がある程度確認できたところで、緊急なこと、絶対に叶えたいこと、予算内であれば実施したいこと、といった感じで優先順位をつけておきましょう。予算がオーバーしたとき、調整がスムーズにできます